

# 11・「被災文化財救援活動について考える会 語ろう！文化財レスキュー —被災文化財等救援委員会公開討論会—」をふりかえって

山梨 絵美子 東京文化財研究所 企画情報部 副部長

## 0. はじめに

平成 24 年 11 月 13 日に行われた第六回東北地方太平洋沖地震被災文化財等救援委員会において、同委員会の活動を終えるに当たり、これまでの活動を振り返る趣旨で座談会を開催することを提案し了承された。その際、座談会を公開としてはどうかとの意見があったことを踏まえ、救援委員会事務局は 2 年間にわたる救援活動を振り返り、問題点を共有する目的で、「語ろう！文化財レスキュー—被災文化財等救援委員会公開討論会—」を以下のプログラムで開催することとした。

## 1. プログラム

「被災文化財救援活動について考える会 語ろう！文化財レスキュー—被災文化財等救援委員会公開討論会—」

主催：東北地方太平洋沖地震被災文化財等救援委員会

会場：東京国立博物館平成館大講堂

第 1 日目 (2013 年 1 月 23 日)

10:00 主催者あいさつ 亀井伸雄 (東北地方太平洋沖地震被災文化財等救援委員会委員長)

10:10 趣旨説明 岡田健 (東地方太平洋沖地震被災文化財等救援委員会事務局)

10:30 1. “文化財”のジャンルとレスキュー活動 救わなければいけなかったのは何だったのか：私たちにできた事；できなかった事 (地域における文化財概念の広がり；参加組織の広がり)

コーディネーター：山梨 絵美子 (東京文化財研究所)

討論者：川鍋 道子 (国立国会図書館)

栗原 祐司 (京都国立博物館)

佐藤 大介 (NPO 法人 宮城歴史資料保全ネットワーク)

田中 康成 (奈良文化財研究所)

福島 幸宏 (全史料協 東日本大震災臨時委員会)

真鍋 真 (国立科学博物館)

12:00 休憩 (昼食)

13:00 2. 必要とされる技術 (1) 1) 防災体制の効果と課題 (リスクマネジメント；免震・耐震等設備の向上；技術的トレーニング)

コーディネーター：金森 安孝 (仙台市博物館)

討論者：奥村 弘 (歴史資料ネットワーク)

神庭 信幸 (東京国立博物館)

佐藤 憲幸 (東北歴史博物館)

田中 善明 (三重県立美術館)

村田 眞宏 (愛知県立美術館)

14:00 2. 必要とされる技術 (1) 2) 応急処置 (作業手順と技術の確立；科学的妥当性と現場における現実的判断)

コーディネーター：高妻 洋成 (奈良文化財研究所)

討論者：青木 睦 (人間文化研究機構)

天野 真志 (NPO 法人 宮城歴史資料保全ネットワーク)

木川 りか (東京文化財研究所)

鈴木 まほろ (岩手県立博物館)

田中 善明 (三重県立美術館)

日高 真吾 (国立民族学博物館)

15:00 休憩

15:20 2. 必要とされる技術 (1) 3) 保管環境 (避難場所の確保と保管環境のコントロール)

コーディネーター：神庭 信幸 (東京国立博物館)

討論者：赤沼 英男 (岩手県立博物館)

荒木 隆 (福島県 教育庁)

及川 規 (東北歴史博物館)

小谷 竜介 (宮城県 教育庁)

松田 隆嗣 (福島県立博物館)

17:00 ~ 18:30 情報交換会 (懇親会) 於 平成館小講堂  
第 2 日目 (2013 年 2 月 4 日)

10:00 主催者あいさつ 亀井伸雄 (東北地方太平洋沖地震被災文化財等救援委員会委員長)

10:10 3. 必要とされる技術 (2) 1) 放射能汚染地域

での救出活動（実情把握の方法と技術的課題；  
今後の展望）

コーディネーター：岡田 健（東京文化財研究所）

討論者：菊地 芳朗（福島大学）

佐野 千絵（東京文化財研究所）

藤原 妃敏（福島県立博物館）

山梨 絵美子（東京文化財研究所）

吉野 高光（福島県双葉町教育委員会）

11:10 3. 必要とされる技術（2）2）活動記録と救出  
文化財データベース（経験の蓄積；分析；伝承；  
文化財としての価値を回復するためのリスト）

コーディネーター：日高 真吾（国立民族学博物館）

討論者：江上 ゆか（兵庫県立美術館）

太田 浩平（凸版印刷株式会社）

葉山 茂（国立歴史民俗博物館）

二神 葉子（東京文化財研究所）

吉野 高光（福島県双葉町教育委員会）

12:10 休憩（昼食）

13:30 4. 人材 1）救出活動（専門的技術と判断力；  
人材の活用；育成）

コーディネーター：岡田 健（東京文化財研究所）

討論者：加藤 幸治（東北学院大学）

菊地 芳朗（福島大学）

高橋 修（茨城史料ネット）

八木 三香（NPO 法人文化財保存支援機構）

山田 格（国立科学博物館）

米村 祥央（東北芸術工科大学）

14:50 休憩

15:10 4. 人材 2）マネジメント（事務局；現地本部；  
作業現場；各団体内部）

コーディネーター：半田 昌之（（財）日本博物館協会）

討論者：鎌田 勉（岩手県教育委員会）

川内 淳史（歴史資料ネットワーク）

菅野 正道（仙台市博物館）

鈴木 まほろ（岩手県立博物館）

村上 博哉（国立西洋美術館）

山内 和也（東京文化財研究所）

17:00～18:30 情報交換会（懇親会）於 平成館小講堂  
第3日目（2013年2月22日）

10:00 主催者あいさつ 亀井伸雄（東北地方太平洋沖  
地震被災文化財等救援委員会委員長）

10:10 5. 体制 1）被災地（県内の連携体制；行政；

被災博物館・資料館等；個人所蔵者）

コーディネーター：浜田 拓志（和歌山県立近代美術館）

討論者：阿部 浩一（ふくしま歴史資料保存ネットワーク）

熊谷 賢（陸前高田市教育委員会）

小谷 竜介（宮城県教育庁）

佐藤 大介（NPO 法人 宮城歴史資料保全ネット  
ワーク）

三瓶 秀文（福島県富岡町教育委員会）

白井 哲哉（茨城文化財・歴史資料・救済保全ネット  
ワーク）

11:30 休憩（昼食）

13:00 5. 体制 2）全国レベルの救援体制（救援委  
員会の連携体制；各県との連携；文化庁等との  
連携）

コーディネーター：伊藤 嘉章（東京国立博物館）

討論者：小松 芳郎（全国歴史資料保存利用機関連絡協  
議会）

佐久間 大輔（大阪市立自然史博物館）

浜田 拓志（和歌山県立近代美術館）

半田 昌之（（財）日本博物館協会）

日高 真吾（国立民族学博物館）

松下 正和（歴史資料ネットワーク）

渡辺 丈彦（奈良文化財研究所）

14:20 休憩

14:30 6. 総括と問題提起 総合討議

コーディネーター：島谷 弘幸（東京国立博物館）

討論者：伊藤 嘉章（東京国立博物館）

岡田 健（東京文化財研究所）

神庭 信幸（東京国立博物館）

浜田 拓志（和歌山県立近代美術館）

半田 昌之（（財）日本博物館協会）

日高 真吾（国立民族学博物館）

山梨 絵美子（東京文化財研究所）

16:30 閉会のあいさつ

17:00～18:30 情報交換会（懇親会）於 東京文化財  
研究所地階ロビー

## 2. 事前アンケートの作成

各セッションの時間が限られていたため、事前に登壇者  
にアンケートを行い、回答を集計して当日の配布資料とし  
た。各セッションのアンケート事項を以下に記す。

## 1 日目

### 1. 文化財のジャンルとレスキュー活動

- 1) 何を助けようとしてレスキューに参加したか？
- 2) レスキュー活動に参加して体験したことは想定内だったか？
- 3) 問題点
- 4) 問題点を解決するためにどのようなことに今後取り組むべきか？

### 2. 必要とされる技術 (1) 1) 防災体制の効果と課題

- 1) レスキュー開始前にとっていた防災体制 (あれば)
- 2) 効果的であったこと
- 3) 問題点
- 4) 問題点を解決するためにどのようなことに今後取り組むべきか？

### 2. 必要とされる技術 (1) 2) 応急処置

- 1) 応急処置としてどのようなことをしたか、また現場で何を要求されたか
- 2) 効果的であったこと
- 3) 問題点
- 4) 問題点を解決するためにどのようなことに今後取り組むべきか？

### 2. 必要とされる技術 (1) 3) 保管環境

- 1) 被災文化財一時保管場所の備えるべき環境として考えた条件
- 2) 輸送後の環境整備処置
- 3) 問題点
- 4) 問題点を解決するためにどのようなことに今後取り組むべきか？

## 2 日目

### 3. 必要とされる技術 (2) 1) 放射能汚染地域での救出活動

- 1) 今回、どのような活動に参加し、何を担当したか
- 2) 活動に参加して体験したことは想定内だったか
- 3) 問題点
- 4) 問題点を解決するためにどのようなことに今後取り組むべきか？

### 3. 必要とされる技術 (2) 2) 活動記録と救出文化財データベース

- 1) どのような記録を作成したか
- 2) 今回作成した記録によって、今後何を期待するか
- 3) 問題点
- 4) 問題点を解決するためにどのようなことに今後取り組むべきか？

### 4. 人材 1) 救出活動

- 1) 具体的にどのような救出活動を、どのような人材によって行ったか
- 2) 救援活動にはどのような人材が求められるか
- 3) 問題点
- 4) 問題点を解決するためにどのようなことに今後取り組むべきか？

### 4. 人材 2) マネジメント

- 1) 今回、どのような立場から活動に参加したか
- 2) 文化財救出活動においてはどのようなマネジメントが有効であると考えられるか
- 3) 問題点
- 4) 問題点を解決するためにどのようなことに今後取り組むべきか？

## 3 日目

### 5. 体制 1) 被災地

- 1) レスキュー開始前にとっていた防災体制
- 2) 震災時の対応
- 3) 回の救援委員会活動についての意見 (よかった点・改善すべき点)
- 4) 現在考えている防災への取組

### 5. 体制 2) 全国レベルの救援体制

- 1) 各団体において、震災後対応について予め取決められていた事項
- 2) 今回の震災においては想定通りであったか？また、新たに取決められた事項はあったか？
- 3) 救援事業に参加して感じる事 (よかった点・改善すべき点)
- 4) これまでの活動を踏まえて「全国レベルの救援体制」についての意見

### 3. 討論の総括

第1日目の「文化財のジャンルとレスキュー活動」のセッションでは文化庁美術学芸課の呼びかけによって設置された「東北地方太平洋沖地震被災文化財等救援委員会」は当初から「被災文化財等」を対象とし、指定文化財、登録文化財以外の自然史系資料、歴史文書、民具、書籍、公文書などのレスキューが行われたことが改めて評価された。その上で、それらの広義の文化財が国、自治体では複数の省庁、部課に分掌されていること、そのために緊急事態にあっては障害も多いことが指摘された。また、文化財リストの作成と複数機関でのリストの共有の必要性、文化財概念を広く人々と共有していく試みを継続していく必要性が話し合われた。

「防災体制の効果と課題」では各機関での免振・防火対策が紹介され、備えの有効性が示された。また、個々の館の備えだけでなく、関連機関とのネットワークにおいて日常的に防災体制が整っていることの実効性が示された。

「応急処置」のセッションでは応急処置に一定のマニュアルは必要ではあるものの、被災状況の多様性、応急処置をする環境と処置後の保存先の環境によって臨機応変な処置が求められることが話し合われ、また、処置後のモニタリングとそのデータの公開の必要性が指摘された。

「保管環境」のセッションでは、被災文化財の一時保管場所の確保が非常に困難であるとの指摘が相次ぎ、また、緊急に確保された一時保管場所の環境を文化財保存に適すよう整える作業の実際が紹介された。

2日目の「放射能汚染地域での救出活動」では被災地に赴く人員の防護体制、警戒区域から持ち出す資料の放射線量のレベル設定など、初めての体験となった放射能汚染地域での文化財レスキュー活動に際しての留意点が紹介され、警戒区域内にまだ多くの文化財が残存している現状と問題点が述べられた。

「活動記録と救出文化財データベース」では、救援活動に当たって義務化された日報データおよび各現場で作成された救出文化財リストに関連する問題点が話し合われた。救援活動における記録の重要性が改めて話し合われ、また、救出文化財リストについては、救出現場から一時保管場所へと物の管理者が次々移り変わる状況でのデータ引継ぎの困難さが述べられた。これらのデータおよび活動日報を今後活かす努力の必要性も指摘された。

「人材の活用；育成」のセッションでは大学、NPO法人、文化財関係施設など、それぞれ異なる人材を擁する組織が、このたびのレスキュー活動でどのような人材をどう配置したかを振り返るとともに、今回の体験の蓄積と反省点を伝えていくことの重要性が話し合われた。

「マネジメント」のセッションでは、被災文化財を迅速にレスキューするために、求められるマネジメントとして、被災地以外から速やかに人材と物資を送り込む枠組みづくり、財源、多岐にわたる文化財の各分野の連携動きが必要であること、そのために、レスキューに関わる構成団体が各組織の性格を相互に理解し、かつ活かしあっていくことが重要であるという認識が示された。また、大きな災害の際の文化財レスキューの流れを、常時、シミュレーションしておくことの必要性が指摘された。

3日目の「被災地」の体制のセッションでは、このたび被災の大きかった岩手、宮城、福島、茨城の各地でどのように文化財レスキュー活動が始まっていったかが現地での体験に基づいて報告され、他のレスキューが続く中で文化財レスキュー活動をする難しさが実感を持って語られるとともに、被災前からの人的ネットワークの大切さが指摘された。文化財の維持保管に対する一般の理解を得るよう常に努力する必要性についての指摘もなされた。

「全国レベルの救援体制」のセッションでは、このたびの救援委員会の構成団体の中から日本博物館協会、全国美術館会議など全国的組織の発災前の防災体制とこのたびの活動を踏まえての問題点が提示され、各団体の今後の方針とともに、このたびの活動で見られた自治体、法人、任意団体等を緩やかに結ぶネットワークの維持への期待が示された。このセッションでは初めて、会場から文化庁美術学芸課からこのたびの活動の問題点と現時点で同課が抱えている今後の方針が述べられた。

最終討論では、3日間の討論を踏まえ、災害への備えとして文化財に関連する諸機関、諸団体がどのように取り組むのが望ましいかについて意見が交わされた。

この討論会の報告書は東北地方太平洋沖地震被災文化財等救援委員会平成24年度活動報告書とは別に作成される予定である。